

【学習のねらい】

HIV/AIDSに対する正しい知識を身につけると共に、病者の立場に立って共に生きる社会づくりについて学び合う。

【準備】 ワークシートをB4用紙に拡大コピーして参加者分用意

【進め方】

- (1) 6人ほどのグループに分ける。
- (2) リラックスしてもらうため、アイスブレイキングを行う。
※本書P11～P27まで参照
- (3) 進め方、話し合う上での注意事項を確認する。 ※ワークシート参照
- (4) 各人にアンケート用紙のテーマの1～7までを記入してもらう。
- (5) グループ内でアンケートの意見を交換し、グループとしての意見をまとめる。
- (6) 1のテーマについて、それぞれのグループに発表してもらい、全体で話し合う。
- (7) 意見がつかしたところで、ファシリテーター用資料を参照しながら情報を伝達する。
- (8) 次に2のテーマ、3と進め、7まで同様に進める。
- (9) 1～7のまとめをファシリテーターが行う。
- (10) 話し合いの結果をふまえ、8～10の問いかけに対し、それぞれに答えを書いてもらう。
- (11) 8～10について、どの答えからでもよいので発表してもらう。あらかじめ依頼しておくこともよい。
- (12) 最後にある感染者の言葉をファシリテーターが読む。

【資料】（ファシリテーター用）

1 AIDSという病気にどんなイメージをもっていますか？

1980年代の終わり頃AIDSへの誤った認識を植え付けるような報道によって、全国のHIV感染者が次々と人権侵害を受けました。また、裁判中ですが、血友病患者の治療薬として使用した非加熱血液製剤による薬害を隠すために、AIDS患者第1号の発表を性行為による感染者と発表しました。私たちもその時の誤った知識や情報をそのままに放置し、払拭できないまま現在にいたっているのではないのでしょうか。

2 HIV感染とAIDS発症との違いを説明してみましょう

HIVに感染していても免疫が確保されているうちは、慢性疾患としての治療を受けたり薬を飲んだりしながら、働いたり学校へ通ったりという社会生活が可能です。しかし、AIDS発症状態となると免疫力が低下していろいろな感染症にかかり易く、衰弱した身体になるため、入院して治療に専念しなければなりません。その後、治療がうまくいけば、体調に合わせた社会生活に復帰することもできます。先進国では治療薬の発達によって延命可能な病気になっていますが、発展途上国では、医療設備の不足や薬が経済的理由で購入できず死に直結する病気になっています。

3 日本でも世界中でもHIV感染が若い人たちに広がっているのは、なぜでしょうか？

HIVの感染源となるものは私たち人間の体液の中で①血液、②精液、③膣分泌液、④母乳、の4つです。血液感染の可能性は、薬害がおきた時代に使用された輸入非加熱血液製剤と注射器・注射針の共用、事故、そして現在の検査方法ではごくまれですが輸血による感染もあります。したがって、血液による感染は、上記以外の日常生活では起きていません。(血液によって感染するウィルスはB型C型肝炎ウィルスなど他にもありますが、感染者は社会で共に生きています。) 普段から、水で洗い流すことや、傷口や血液をさわる時はティッシュやハンカチを使って止血したりすることを心がけておくことが大切です。今、世界中でHIVが広がっている経路はほとんどが性行為によるもの(性感染症=S.T.D)です。買売春や不特定多数の人との性行為によるものだという誤った知識を信じていると、自分のパートナーも、感染する可能性が十分あるのです。夫妻でも恋人でも男と女でも男同士でも女同士でもどんな人も互いの身体や性について話し合い、安全な性行為(セーフセックス)ができていのかどうかを考えてみましょう。また、HIV感染している人も自分の感染をよく知り、相手に感染させないように注意した性行為は可能です。感染していることを知った上で、結婚し医師と相談し赤ん坊を生み育てている若い夫妻もいます。感染していても、愛し合い、家族をつくり生きていく希望や道もあるのです。

母子感染には胎盤、産道、母乳を通しての10~30%の感染の可能性があります。日本では、予防薬の使用による胎盤感染防止や帝王切開による産道感染防止そして、母乳はミルクへと切り替えられます。地球全体を考えると母体を守る医療の不足、女性への性差別、性感染症予防の情報不足、コンドームなど避妊具さえも手に入らず、女性が自らの身を守る術さえ得られぬ状況もあるのです。

4 自分にも自分の家族や友人にも感染するかもしれない身近な病気だと思いますか？

誰にでも感染するかもしれない病気だという認識や危機感がない中で広がっています。感染していても症状が出にくく、ほとんどの人が抗体検査を受けていないため、発症してから気づく人が多いのが現状です。また、AIDSへの偏見差別を恐れ、感染しても人に告げることができにくい病気なのです。

5 なぜ性教育やAIDS教育が必要なのでしょう？

感染が広がっている若い世代のことを考えると、性行動をおこし始める中高生の年代までに、性について話し合い、選択行動ができる教育が必要です。子どもの頃からわかりやすくやさしく性について恥ずかしがらずに伝えることから始めてほしいものです。親や大人と、友人や教師と、安全な性行為、生命と向きあい、互いの身体や人格を尊重し合うための、性教育＝人権教育がのぞまれています。AIDS教育は、誤った情報によって傷つけられたHIV感染者やAIDS患者の人たちの生き方、また受けた差別や人権侵害を知りその人の立場になって考えること、そしてまた薬害の歴史についても学び、二度とくりかえすことのないように、社会全体が関心を持つことが大切なのです。（患者の方々の書籍などを読んだり感染者の方の話を書く等）HIV/AIDSの知識や教育は「ワクチン」と言われています。

6 友達や恋人や家族が感染していてそのことをあなたに告げたとしたら、どんなふうにつきあい何ができるでしょう？

身近に感染した人がいないと思いきや、病気についてよく知らなかったりしたら、きっと誰でも初めは驚くかもしれません。しかし、その人のことを大切な人と思っているなら、病気のことを学び、正しい情報を伝えてあげたいと思うでしょう。まず、その人の気持ちをよく聴くことです。責めないでその人の悲しみや苦しみ、恐怖感を共有しそばにいて味方であることを伝え、その人のプライバシーを守って行動しましょう。もし、感染した人が自分の性的パートナーであったなら、あなた自身も抗体検査を受け感染を確かめてほしいと思います。

7 自分が感染しているかもしれないと思ったら、誰に相談し、どこに検査に行きますか？

一人で苦しまず信頼できる人や、味方となってくれる人を見つけて話し、検査に行きましょう。電話相談もあります。（在住外国人の方への母国語でのホットラインも用意されています）また、検査を引き受けた保健所や病院でも、プライバシーを守り結果は本人だけに伝えられます。そして、安心して治療が受けられる医療機関、医者やソーシャルワーカーも紹介してくれます。身体障害者認定を受けられる福祉の援助もあります。

また、感染者同士が話し合い情報交換できる場もあります。感染を確かめることは、自分自身が早期治療や延命できる道を選び、希望を捨てずに生きることになり、また他者（特に愛する人に）感染を広げない行動をとることになります。現在、日本のHIVに対しての治療は発達しています。適切な薬を飲み、HIVと共存して生き抜いていくことが可能です。

1～7のまとめ

感染に対する理解や病者の人権を学ぶことは、自分の関わる問題として受け止めることから始まります。他人事として知識を学んでも、いざとなれば怖がったり、差別したりしてしまうことになりかねません。HIV・AIDS問題は、自分たちの生活と切り離すことのできない、いつも身近にある問題であり、共生社会の樹立の中で、皆で考えていかなければならない重要な事柄ということをお肝に命じておきたいものです。

（文責：木島 知草）

「わたし」と「あなた」
そして「みんな」の人権

学習会に参加するみなさんへのお願い

- 1 他者の意見をよく聴く。
- 2 発表された意見に対しては、間違っていると思っても評価したり批判はしない。
- 3 「わからない」こともひとつの意識ですから、正直に発表し合う。
- 4 プライバシーにふれるような話が出た時は、この場の中だけのこととして他の場で話さない。

I 1～7までを各自書き込んでください。(グループで分からないところを相談してもよいです)

- 1 AIDSという病気にどんなイメージをもっていますか。
- 2 HIV感染者とAIDS発症との違いを説明してみましょう。

- 3 日本でも世界中でもHIV感染者が若い人たちに増えているのは、なぜでしょうか。
- 4 自分にも自分の家族や友人にも感染するかもしれない身近な病気だと思いますか。

- 5 なぜ性教育やAIDS教育が必要なのでしょうか。
- 6 友達や恋人や家族が感染していて、そのことをあなたに告げたとしたら、どんなふうにつきあい何ができるのでしょうか。

- 7 自分が感染しているかもしれないと思ったら、誰に相談しどこに検査に行きますか。



II 8～10は一人一人が自分の気持ちを書いてください。(発表できる方は是非お願いします)

- 8 あなたがもしHIVに感染していることがわかったら、今までと変わる生活でしょうか。変わるとしたら何がかわるのでしょうか。
- 9 あなたがもし病気や障害者になったとき、周りの人たちや社会がどんなふうだったらいいと望みますか。

- 10 今日の学習会に参加した感想を裏面に書いてください。

※ありがとうございました。最後にある感染者の方の言葉を読んでください。

私は、HIVに感染したことを知ったとき、ショックでもう立ち直れないと思った。自分のかかった病気について何も知らず、自分で自分を差別してしまっていた。でも、多くの人に心から助けられ、自分のかかっている病気についても学び、受けとめられるようになっていった。そして、私は私であることに変わりはなく、病気は私の一部分となった。今は友達も恋人もいて、人を愛し希望を持って生きていきたいと思っている。私にとって怖かったのは、HIVではなく、私の中にも社会の中にもある「偏見、差別」という病気なのだ。HIVは人を差別しない。人がおこす「偏見、差別」という病気は大きなかたまりとなると、人を社会的な死に追いやるものだとということを知っておいて欲しい。